



第 100 号

編集
代田・九条の会
小澤 清子
伊東 宏

代田・九条の会News

2017/3/14

itohiroshi1007@gmail.com

ホームページ : <http://www.daita-9jo.sakuraweb.com/>

会報 100 号を迎えて

私たち、代田・九条の会は、1年にわたる準備会合を続けた後、憲法公布記念日の2008年11月3日に、64人の参加を得て、元気よく発足しました。

平和憲法第9条を守るための一点でまとまった会は、今年の11月には9周年を迎えます。その間、我が会は講演会など年数回のイベントの開催、九条の会関連団体の行事への参加など各種の活動を続けてきました。これらの活動のメインになっているのが毎月の会報の発行です。

発足したすぐの11月11日には、早くも第1号が発行されています。第1号には、今は亡き高岡岑郷さんの「発会式」の記事が巻頭を飾っています。以後、回を重ねて、この3月で100号を迎えることになりました。

会報は、会の会合に参加された会員のみなさんに、現在9人の事務局員が、毎月分担して配布しています。内容については、前月の会議で執筆分担を決め、編集・印刷しています。

発行部数は当初100部くらいから始まりましたが、現在は約200部になっています。この部数を増やすことが課題で、これを通じて会員を増やし、地域での会の存在価値をあげていく必要があります。

この100号までの間、日本では、麻生・鳩山・菅・野田・第2次、第3次安倍と内閣が代わり、米でも、ブッシュ・オバマ・トランプと大統領が代わっています。日本ではいわゆる戦争法(安全保障関連法)の強行採決があり、昨年の参院選の結果、改憲勢力の国会議席数が両院とも2/3を超え、安倍政権は明文憲法改悪の実現に向けて準備を進めています。

私達は、平和を愛する国民を信じて、世界に誇る平和憲法を守り、九条を守る運動をあきらめずに一步一步前に進めていきましょう。
(代田5丁目・野間口 至)

憲法公布60年の11月3日

「代田・九条の会」発足！

11月3日、日本国憲法公布60年の「文化の日」の午後、「代田・九条の会」発足のついでに代田区民センターでおこなわれ、64人が参加しました。

沢田研二さんの「我が窮状」が流されてオープニング。まず、方言指導者の大原種子さんが「おくにことばで憲法を」、「国民学校」で「皇国民教育」を受けた少女時代の体験と、戦後の「あたらしい憲法のはなし」での出発を語りながら、9条を京都弁で、11条「基本的人権の享有」を広島弁で読み、自分の言葉で憲法を読みとり、暮らしに生かすことを呼びかけました。続いて、世田谷九条の会・呼びかけ人で立正大学教授の金子勝さんが、「憲法九条誕生物語」と題して講演。金子さんは、みんなが「憲法の語り部」にと豊富な資料を用意され、改憲勢力の狙いを暴露するとともに、9条が人類と世界の「導きの星」になっていることを示したあと、9条がどのようにして生まれたのかを解明しました。

続いて、準備会から発足までの経過、会の申し合わせの提案を事務局の小澤清子さんがおこない、全員の拍手で確認しました。よびかけ人には、俳優の小澤昭一さんや役者のなべおさみさんなど幅広い人たちが紹介されました。

世田谷九条の会より橋本博さんが、発足のついでにゆたかな内容と幅広い会の結成への共感を述べてあいさつされました。また、井の頭沿線九条の会、代沢九条の会、桜丘九条の会などから、活動の紹介と連帯の発言が寄せられました。

世話人、事務局メンバーを確認したあと、代表の野間口至さん（出水市ふるさと大使）が、「9条を守る一点で、力を合わせていきましょう」と力を込めてあいさつし、参加者全員の大きな拍手に包まれました。（2008.11.4 高岡岑郷 記）

自衛隊、南スーダンから「撤収」

3月10日、2012年からPKO業務として南スーダンに派遣されていた自衛隊の部隊をこの5月で撤収させる、と安倍首相が発表した。昨年秋頃から検討を進めていた、としているが、なぜ今なのか、ということには明確な説明がないように思える。派遣された自衛隊員が無事で帰ってくることをまずは希望したい。

昨年11月に派遣された部隊に対しては、いわゆる「駆けつけ警護」任務が「戦争法」に基づいて初めて付与されている。その前の7月にはジュバ市内で「戦闘」が生じていたことが、当時の自衛隊派遣部隊の日報に記されていたことは知っていたはずの政府には、南スーダンの情勢の危険性は十分把握されていたはずである。そのような危険な状況の南スーダンへ国民の広い反対を押し切ってまで派遣しておきながら、わずかに約3カ月で撤収の決定をするのであれば、派遣の前に「派遣しない」ことを決定できたのではないかと、という疑問が生じてくる。とともに何とかして「駆けつけ警護」などの新任務をもった部隊を派遣するという「実績」を積みたかったのではないかと、という疑問も生じてくる。

憲法九条の下で、武力行使を禁じられていたはずの日本国が、自衛隊を海外に派遣し、「駆けつけ警護」などの名目で他国民と銃で撃ち合うことを可能にした「戦争法」は極めて危険であることをあらためて考えさせられた。
(代田2丁目・伊東 宏)

～ 私たちが住み、暮らし、働いているまち 代田で、

「日本国憲法第9条」をまもり、活かす活動をすすめてみましょう ～

+++ このニュースを、ぜひ、周りの人に広めてください。 +++

この格差・貧困社会を変えるために

2月19日「格差・貧困にノー！みんなが尊重される社会を！」集会在日比谷野外音楽堂で開催され400人が参集した。

先ず「非正規労働者、子どもの貧困が増え生きづらい社会をみんなで連帯して変えていこう」と藤本泰成さん（戦争させない1000人委員会）による開会挨拶があった。次いでメインスピーカーの本田由紀さん（東京大学大学院教授）が教育や社会保障に当てる国家予算の割合が先進諸国の中で日本が最低水準で、逆に子どもの貧困率はトップクラスに高いと現状を告発し憤りをあらわにし、闘う意思を表明した。私は学者にしてそのアクティブさに好感を持ちました。

民進党（山尾議員）、共産党（小池議員）、社民党（福島議員）、自由党（渡辺都連会長）の各氏からは安倍政権の真実を消そうとする言葉の置き換えや嘘の乱発、アベノミクスによる格差・貧困の拡大、税金の集め方と使い方の変革、戦前の治安維持法のような怖い共謀罪の策定、選挙の投票率が低すぎるせめて70%にしなければ、など様々な問題提起がなされた。そして安倍政権の暴走を市民と野党が連帯して止め、みんなが豊かになる社会に変えよう！と呼びかけた。

シングルマザーの会代表はシングルマザーの家庭は低収入で非常に困窮している。社会保障の充実を切望していると述べた。元シールズの諏訪原さんは学生の約半分は奨学金の負債300万円を抱え、彼自身は1600万円を抱えていると話し、学費の無償化が早急に望まれると訴えた。集会に参加して市民生活の困窮が切迫していることを身にしみて感じました。友人と選挙の投票率を上げるにはどうしたらいいのか、小選挙区制を変えなければ、などと話しながら銀座までデモをしたのでした。

（代田5丁目・日暮 恵子）



集会等の紹介

4月16日（日） 13:30～15:30

横田基地の撤去を求める「すわりこみ行動」に参加しましょう！

場所：福生市フレンドシップパーク（横田基地脇）

主催：横田基地の撤去を求める西多摩の会

**11時20分：下北沢駅・西口集合

（11:28 下北沢駅発（吉祥寺・立川経由福生駅）徒歩）

**小雨決行。参加される方は代田・九条の会事務局員まで

5月3日（水）

施行70年 いいね！日本国憲法

—平和といのちと人権を！5.3 憲法集会

場所：有明防災公園（東京臨海広域防災公園）

主催：5・3 憲法集会実行委員会

5月14日（日） 13:30～16:30（予定）

憲法記念日によせて

講演：「命どう宝と憲法九条」（仮題）

新垣 毅さん（琉球新報社東京支店 報道部長）

主催：代田・九条の会

文化企画：琉球舞踊 がじゅまる

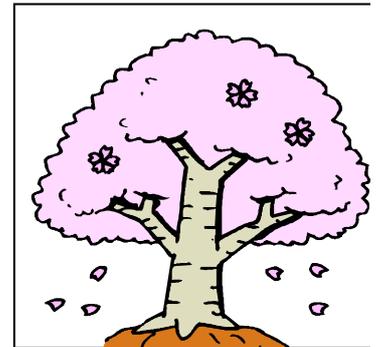
6月2日（金） 18:00～

日本国憲法施行70年「九条の会」講演会

九条の会呼びかけ人と世話人によるリレートーク

場所：杉並公会堂大ホール

主催：九条の会、九条の会東京連絡会



お願い：ニュースの原稿を募集しています。400字位で、お近くの世話人までお寄せください。

また、活動費用に充てるためのカンパをお願いします。